

# 特許庁長官賞

## 【特許情報人材育成成功労者】

HIT サービス研究所 代表  
都築 泉

### 1. 受賞にあたって

この度は「特許情報普及活動功労者表彰」において、特許庁長官賞という大変栄誉ある賞を受賞させていただき、身に余る光栄と存じます。これは、今まで、周囲の皆様から暖かいご指導をいただき、また、各種の活動に参画させていただきましたお陰と、深く御礼申し上げます。

ここで今まで、特許情報に関係した業務や活動を振り返り、ご指導・ご協力いただきました皆様への感謝の印とさせていただきます。

### 2. 企業勤務のころを振り返って

昭和50年代前半に、丸善株式会社において、Dialog（現：ProQuest Dialog）という海外情報を中心にしたデータベースサービスが開始され、その後、大阪での担当部署として、MASIS 関西センターが設けられました。私の社会人としての仕事の第一歩は、この MASIS 関西センターでの Dialog のセミナーやサポート担当でありました。最初に手掛けたのが海外情報であったことは、その後の私の

仕事への取り組み方に大きく影響を与えたと思いません。

入社後、ほどなくして、「特許情報」の重要性が高まる機運の中から、海外、特に米国の特許情報への関心が強くなり、当時 Dialog で提供されていた米国特許データベースの CLAIMS（現：IFI Claims）を取り上げて研究しよう、と、丸善 MASIS センターにおいて、「IFI ユーザー会」が東京と大阪で設立されました。大阪での IFI ユーザー会には、関西の主要企業の方々が 15 社前後入会され、私は、IFI ユーザー会のサポートを通じて、メンバーの皆様とお近づきになることができ、「特許」というものを、データベースの面からも、また、企業内の業務や位置づけ等の面からも多くを学ばせていただきました。本当に貴重な機会でした。なお、丸善の業務内容・組織の変更に伴い、運営母体は変わり、会の名称も変わりましたが、この研究会は、現在でも「情報技術研究会」（事務局は（株）ジーサーチ）として、活動が継続されています。

その後、丸善を退社、青山特許事務所に勤務、さらに、（株）KMK デジテックスからジーサーチへと勤務先は変わりましたが、一貫して、特許情報を中心とした知財情報に関わってきました。短期間でしたが、青山特許事務所に勤務させていただいたお陰で、知財業務の別の面を教えていただき、貴重な勉強をさせていただきました。その後勤務した、KMK デジテックス、および、ジーサーチにおいては、東京と大阪の兼任という形で勤務させていただき、この間、本来は関西在住の私も、関東圏の方々とも広くお知り合いになることができ、自分にとっての仕事の世界が大きく広がりました。

KMK デジテックス勤務までは、Dialog、Lexis、QUESTEL/DARC（現 Questel.com の前身）



などの海外情報提供サービスが仕事の中心でしたが、ジー・サーチに移ってからは国内情報も取り扱うようになり、海外データベースと日本のデータベースの利用のされ方の違いに少々驚いたりもしてありました。

### 3. 大阪工業大学での特許情報との関わり

大阪工業大学において、2003年に日本で唯一の知財学部が設立され、引き続き、2005年に知的財産研究科（専門職大学院）が設立されました。私は、この知的財産研究科において、特許情報を中心とした知財情報の検索や活用を学生に教えることになりました。

#### 3.1 院生と特許情報

院生に関係した特許情報関係の活動としては、インターンシップ担当をしたことが強く印象に残っています。というのは、インターンシップ活動で院生が派遣先の企業で依頼される仕事は、特許情報を中心とした知財情報検索、検索結果の解析、パテントマップの作製など、知財情報に関わる仕事を担当させていただくことが多々あったからです。特許・意匠の調査や発案に知財検索技術やパテントマップが役立ったことを聞くと、大変嬉しく思いました。

#### 3.2 学部学生と特許情報

学部学生に対する取り組みで強く思い出すのは、情報科学技術協会 (INFOSTA) が行う「情報検索能力試験」(現: 検索技術者検定) です。当時の石井研究科長・学部長の意向もあり、外部から講師をお招きするなどして、例年、試験対策講座を開催しました。大阪工業大学を団体受験会場とし、多い年には70名を超える学生が学内で受験しました。これも、知的財産研究科長・学部長をはじめ、大学の知財事務室長および事務室メンバーの強力なサポートにより実現できたことです。

#### 3.3 商用データベース、パテントマップソフト

大学で担当した知財情報調査・分析等に関わる科目では、無料のIPDL(現 J-PlatPatの前身)や米国特許庁や欧州特許庁の提供する無料のデータベースを活用しました。一方で、特に院生の



HIT サービス研究所 代表 都築 泉

#### 《プロフィール》

- 1980年5月 丸善株式会社に入社、MASIS 関西センターにて勤務(1993年12月まで)
- 1994年1月 青山特許事務所に所属(1997年3月まで)
- 1997年4月 株式会社 KMK デジテックスに入社、次長(2000年1月まで)
- 2000年2月 株式会社ジー・サーチ データベースに入社  
営業部カスタマーサービス担当課長(2005年3月まで)
- 2005年4月 大阪工業大学大学院 知的財産研究科 助教授 / 准教授 / (2013年3月まで)
- 2013年4月 大阪工業大学大学院 知的財産研究科 特任准教授 / (2014年3月まで)
- 2014年4月 HIT サービス研究所を設立、代表

#### (主な対外活動)

- インフォ・スペシャリスト交流会 (ISForum)
- ISForum 特許分科会
- CNMEI コース研修 (商標情報検索)
- 特許情報検索能力評価のための実行委員会
- 知財情報研修(「欧米特許情報調査」など)
- 近畿知財戦略本部
- 特許等取得活用支援事業に係る審査委員会
- 認定試験実施委員会 作業分科会(応用)
- 認定試験実施委員会 作業分科会(基礎)
- 特許情報分析研究会 (APIA)

場合には商用データベースに触れることも重要と考え、HYPAT-i、JP-Net、PatBase、DWPI等を利用しました。また、特許情報分析ツールとして、PAT-LISTを導入していました。これらは、一通り大学でも契約していましたが、講義の際のパスワードの発給や説明会の開催など、それぞれの提供会社の方には大変お世話になりました。

### 3.4 学生参加の外部の研究会

2010年5月に、大阪でPAT-LIST研究会の活動が開始されました。これは、特許情報解析ツールPAT-LISTを用いて研究活動をする会であり、提供元のレイテック社により運営され、私自身のみならず、研究室のゼミ生もメンバーに入れていただきました。といっても、学生たちは、レイテックの方々のお世話になりっぱなしで、今思い出しても本当に恐縮してしまいます。もちろん、学生にとっては、卒業論文や専門職修士論文の作成に大いに役立ち、また、社会人の方々と触れ合うことができる貴重な機会でもありました。

その後、大阪のPAT-LIST研究会は休会になりましたが、その流れをくみ、レイテック社以外にも、インパテック社、ジー・サーチ社のご協力もいただきながら、特許情報分析研究会(APIA)を立ち上げ、社会人中心に、院生も加えていただき、2年半の間、活動を継続しました。その間、InfoPRO2014での研究発表も行うなど、充実した活動を行うことができました。なお、APIAは、その後、3i研究会(主催INFOSTA、共催JST、協力機関ジー・サーチ)

に統合していただき、私も含め、半数以上のメンバーは大阪の3iで活動を続けています。

## 4. ユーザーグループ関係の活動

上記のAPIA以外に、現在も関わっているユーザーグループ関係の活動として下記があります。

### 4.1 インフォ・スペシャリスト交流会と特許分科会、知財情報フォーラム

INFOSTAの情報検索能力試験(現:検索技術者検定)の合格者の勉強の場として、関西中心に活動する研究会、インフォ・スペシャリスト交流会(ISForum)(旧名:データベース・サーチャーの会(関西))が1988年12月に発足しました。さらに、1997年12月からISForumの下部機関として特許情報に特化した活動をする場として特許分科会が組織され、これら研究会の活動に参画させていただきました。これらの会は現在も続いています。

一方で、情報検索能力試験の合格者でなくても入会・活動できる場として、2014年後半に知財情報フォーラム(IPI-Forum)を新たに立ち上げました。この会は、年に3~4回の研究会を開催、基本は、互いの話題提供等による会員間の情報交換とし、可能な際には、ボランティアで外部講師をお願いしています。今後も継続的に活動し、いずれは、活動度の高い好ましい状態で後継者に引き継ぎたいと考えています。

### 4.2 パテント・サーチャー研究会 in 関西

10名程度の少人数で、特許調査に関係して日頃の業務での悩みや疑問などをお互いに話し合う場、として、(株)サピエンティストとアイ・ピー・ファイン(株)により2013年10月以降、年に3回程度開催されています。スタッフの方からアジアの特許情報や新サービス紹介等があり、その中で、約1時間、「サーチャーのための座談会」が行われ、参加メンバーの知財情報等に関する業務上の困り事や疑問を皆で話し合うための時間帯となっています。いつも時間が足りなくなるぐらい、熱心な話し合いが行われています。座談会の座長をつとめさせていただいている私は、話題として役立てば、と、特許情報関連のニュースや関連学会などで得た情報



をA4の1～2枚程度で持参・紹介しています。

## 5. 特許検索競技大会

2007年以降、毎年、8月末～10月末に開催されている特許検索競技大会については、特に思い出深いものがあります。この大会は、もともとは関西特許情報センター振興会の設立50周年の記念行事として開催されたもので、初回は40名程度の参加者でしたが、2回目以降は、INPITが共催、後に主催機関となり、東京・大阪で同時開催されるようになりました。2013年以降はIPCCの主催、2014年度には約240名、2015年度には約290名が参加する一大イベントに発展しました。2014年度までの8年間、この活動に参加させていただいたことは、私の特許情報関係の活動の中でも、特に大きな宝であり、その活動を通して得た人脈や知識は他をもって変え難い貴重なものです。

特に、思い出深い事柄としては、2013年度から基礎的な検索の知識を問う“ベーシック・コース”が設けられ、それまでの高度な専門家を想定した試験内容はアドバンスト・コースとし、二つの受験レベルができたことです。ベーシック・コースができたことにより、学生や検索初心者にとっても身近なものとなりました。また、私の退任後になりますが、2015年度は国際セッションも設けられ、ゲスト参加者として海外から8名、国内から2名を招待するなど、さらに広がりのある活動となり、実行委員会OBとしては嬉しい限りです。

## 6. 海外学会への参加

2005年の3月、大阪工業大学へ転職する直前に、スペインのマラガで行われたIPI-ConfExにはじめて参加しました。この学会は例年3月はじめに欧州で開催され、私は、現在までに合計7回参加、ポスター発表も含め、6回の発表を行いました。

海外での特許情報の学会としては、他に、例年5月に米国で開催されるPIUGがあります。2014年と2015年には、このPIUGにも参加し、現在も特許検索競技大会で活躍されている旭化成 中村栄氏と、特許検索競技大会の活動紹介について、共同発表を行いました。

今では、海外情報もインターネットで簡単に手に



IPI-ConfEx2011(スペイン Sevilla)でのポスター発表

入り、また、各データベースシステム提供会社や関連機関が、海外の新たな情報もすぐに翻訳・提供してくれます。しかし、そうであっても、時には、自分が出かけて行って、海外の専門家たちの中に入って直接情報に触れることは大事だと思います。

なお、日本では大成功している特許検索競技大会と類似したような活動として、欧米では、QPIPという、特許情報専門家の資格試験を、欧米にまたがって行おう、という大きな計画があります。日本の特許検索競技大会よりも前から検討されているのですが、計画が大規模な分、簡単に動けない、などの問題もあるようで、まだ実現していません。

## 7. 最後に

上記のような活動を続けてこられたのは、大阪工業大学、同学知的財産研究科および知的財産学部の教職員の皆様、さらには、それまでの勤務先であった丸善、青山特許事務所、KMK デジテックス、ジーサーチ各社の皆様のご指導とお引き立てがあったお陰です。また、各種研究会活動やセミナー等でお世話になり機会を与えていただいた日本パテントデータサービス社、アイ・ピー・ファイン社をはじめ、外部での活動の場を与えてくださった関係者の皆様にも心より深く感謝申し上げます。

今回の受賞を励みとして、今後も、皆様のお役に立てるような活動を続け、またこれからの方々に何かを残せるように努力する所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。